

第2回三田市教育委員会点検・評価委員会 会議録

- 日 時：令和6年8月6日（火） 14：00～15：03
- 場 所：まちづくり協働センター 講座室
- 出 席：吉田委員、下中委員、齊藤委員
- 事務局：浅野学校教育部長、外岡学校教育担当部長、井上教育総務課長、久保教育総務課担当課長、上野学校再編課長、田中学校教育課長、市原教育支援課長、出藏教育研修所長、小東学校給食課長、下山文化スポーツ課長、神影子ども育成課長、藤田幼児教育振興課長、石野教育総務課係長

1 開会

2 会議の公開及び傍聴

- ・公開
- ・傍聴人なし

3 委員長あいさつ

4 確認事項

- (1) 議事録の確認

5 議事

- (1) 点検・評価委員の意見に関する説明及び質疑応答
- (2) まとめ

6 閉会あいさつ（学校教育部長）

7 閉会

【第1回教育委員会点検・評価委員会議事録の確認】

委員

・5ページの「受験」の記載について、高校に関しては正しくは「受検」ではないでしょうか。または、どちらでも良いのでしょうか。

事務局

・どちらでも問題はありません。厳密には、私立学校の場合は入学試験を受けるため「受験」、公立学校の場合は学力検査を受けるため「受検」が正しい表記となります。

【点検・評価委員の意見に関する説明及び質疑応答】

委員長

・ご説明ありがとうございました。
・事前質問にご回答いただいている件について、質問いたします。有馬富士のジュニアスタッフの登録人数及び活動状況について、年間12回のプログラム実施の中で、生物調査、展示物制作、ワークショップの準備・実施を行ったと回答いただいています。このような活動を通じて、一定リーダーとして活動できるようになることを意図していると理解してよろしいでしょうか。

事務局

・ジュニアスタッフの活動を通して自然環境に興味をもっていただいた方は、中高生を対象としたユーススタッフにステップアップして活動いただくことができ、そうした活動を通じて、大人になってからも子どもたちに自然環境について伝えていっていただけるように取り組みを進めています。

委員長

・こうみん未来塾にしても、非常に魅力的な探究コースが多くあり、子どもたちの興味関心に応じて、より深い知識を得られる仕組みが構築できていると思います。ただ、ネックと感じるのは、中高生には時間が無く、皆のために奉仕するというようなことが難しいのではないのでしょうか。

事務局

・こうみん未来塾については、学びの循環を意識した取り組みを行っており、小中学生を対象にした講座ではありますが、高校生については教える立場として関わっていただいています。こうみん未来塾は川本幸民が由来となっていることもあり、理科・科学系のクラブ活動をしている市内の高校生が講座を実施しています。当然、教えるためには自分たちはさらに勉強していなければならないので、自分たちの学びにもなりますし、身近なお兄さん、お姉さんが教えてくれるとなると小中学生の集中力、満足度は高くなっています。その小中学生が高校生になったときに、クラブ活動を通じて、教える側になっていただけるように、学びの循環を意識して取り組んでいます。

委員長

・とても楽しみな取り組みだと思います。ありがとうございました。

委員

・三田市内で邦楽を伝える団体の方々が、三田の昔話に基づいた能や狂言を

つくられており、夏休みの小中学生を募集して、能や狂言の学習や体験、発表などを行っていますが、こうみん未来塾の講座の一つとして加わることは可能でしょうか。科学の分野でないと難しいでしょうか。

事務局

・こうみん未来塾では、実は能に関する講座もございます。積極的に活用していただきたい思いはありますが、選択肢としてはありながらも実際の活用までは至っていない状況です。
・他にも、歴史上の人物や伝統文化、スポーツなど、こうみん未来塾としては様々なジャンルでの講座の実施が可能ですが、例えば伝統文化を披露するというような場ではなく、学びの部分をどれだけ含めていただけるかが重要で、どのように講座を作り上げていくかは相談に乗らせてもらっています。

委員

・学びの部分というには、科学的な要素が必要になるのでしょうか。

事務局

・例えば、走り方を教える講座については、「走り方の科学」というテーマで講座を実施いただいています。速く走るための理論を伝え、実践してみるという内容になっていますが、学びには色んな方法があると思いますので、当課にご相談いただきながら、作り上げていただければと思います。

委員長

・報告書 67P の個票 62「学校評価を活用した教育活動の改善推進」について、学校評価によって教育活動が向上したという内容が記載されている必要があるかと思いますが、ここに「市立幼稚園芝生園庭開放実施状況」の記載があることに疑問があります。記載されるべきは、PDCA サイクルを上手く動かして効果があった事例であると思います。例えば、学力調査であれば非常にわかりやすく結果が出ています。芝生園庭開放については、芝生を開放して裸足で活動できて成長につながったということは学校評価の報告書に記載されていますが、PDCA サイクルによって年々向上していくというようなことには当てはまらないのではないのでしょうか。前回も同様の記載だったようですが、学校評価により改善につながったといえるものか疑問がありますので、記載内容が妥当なものであるかご検討をお願いします。

事務局

・ご指摘の部分について、検討させていただきます。

委員長

・続いてになりますが、事前質問で「給食センター基本構想支援等業務委託」の内容についてご回答をいただいています。もう少し具体的な内容を教えていただくことは可能でしょうか。

事務局

・8月1日から、基本構想策定支援業務委託の入札情報について市ホームページで公開（期間が終了次第、非公開）しており、給食センターの現状と課題

や、今後給食センターを整備していくにはどんな方法があるのかについて検討していくものとしています。

- ・整備する場合に必要な機能、敷地に対して望ましい施設及び設備の配置、整備費の概算、整備にあたってのスケジュール化について検討します。

- ・運営方法についても、現在は直営で行っていますが、他市では民営など様々な運営方法がありますので、メリット、デメリットをふまえた運営手法の検討を行います。

委員長

- ・ありがとうございます。当然他市の状況は調査されていますでしょうか。

事務局

- ・あらかじめ情報交換は行っておりますが、県内の範囲ですので、県内にとどまらず、最新の情報を収集していきたいと考えています。

委員長

- ・業務委託によって給食の質が低下してしまうのではないかと懸念します。

- ・例えば、市役所にキッピー食堂がありますが、給食業務を委託することとは全く意味が異なるものです。給食としての食事は、これを食べなさいというものですので、子どもたちは選ばません。それしか食べられないという状況で給食は提供されるので、絶対に安全でなければならず、一つの事故も許されません。

- ・現在、非常に安全な給食が提供されていて、アレルギーがこれだけ多様化している中でも大きな事故がないということは、凄い努力があつてのことであると思います。当たり前のことでありながら当たり前でなく、感謝すべきことです。

- ・そういったことを考えると、民間業者というものは、一般的には利益を追求するものですので、委託費用の中でいかに利益を上げるかという考え方になると、非常に危険性を感じます。目先の事故は無いとしても、滅菌処理等の過程で使用される物質など、食べ物を通して子どもたちの体内に蓄積したものがどのような被害を及ぼすかということも、民間業者でどの程度考えてもらえるものなのかということに非常に不安があるということがまず1点あります。

- ・地産地消が随分進んできています。栄養士さんからも農家さんの顔が見えていて、農家さんからも栄養士さんの顔が見えている状況があつて、非常に愛情のこもった給食が提供されていると思います。その点、業務委託をすることによって、栄養士さんは勤務を続けてくださるとしても、今見えている農家さんの顔や子どもたちの顔が見えにくくなってしまわないかと懸念しているということが2点目です。

- ・子どもたちの命を預かる給食は、ある意味で教育の場であると考えます。それを業務委託するというのは、教育内容を業務委託するようなものではないかと感じられます。今から検討を始めるということですので、市の今の良

さを絶対に守ってほしいと思います。

・もう一つ加えるなら、市の良さを守っていただければ、三田市は先進的になると思います。他市では業務委託が増えています、苦情が多く、弁当を持っていくようになっていく市もあります。子どもの命を守る市であるというアピールにもなると思いますので、小中学校の給食は市の責任で提供するという形をぜひ残してほしいと思います。

事務局

・検討してまいります。

委員

・委員長と同じ意見です。三田の給食で育った子どもたちが高校生になったときに、驚いたと言う話がありました。他市出身の子どもたちの話では、学校で提供される食べ物が安全なわけがない、美味しいわけがないから学食に行かないとのことでした。小中学校の給食で、安全でない、美味しくないということを経験してしまったので、信頼していないとのことでした。

・三田で育った子どもたち同士では、美味しく、温かく、冷たいものは冷たい三田の給食と、それを提供してくださる方々を自分たちはとても信頼していたという話をしていました。

・給食の献立表の通信も2種類あり、アレルギーについて詳細に記載してあるものと、子どもたちが見るためのイラストやクイズがあるものがあって、そういった部分にも子どもたちはとても愛情を感じています。

・栄養士さんと ZOOM でやりとりしたり、時には学校に来てくださることもあって、子どもたちにとっては栄養士さんも給食センターも非常に身近なものです。先生たちが調理実習の際に栄養面や安全面などで相談なさったときに、栄養士さんが学校に来て調理指導して下さったという話も聞きますので、先生方にとっても非常に身近に感じておられます。

・子どもたちの食に対する素直な感謝の気持ちや、美味しいなという気持ちが守られ、食への安全が確保できる形で進めていただけたらと思います。お昼休みの様子を見ていただければ、子どもたちが「お腹すいた！」と教室に帰ってきて必死でエプロンに着替え、とにかく給食を楽しみに来ていることがわかります。また、給食がただ楽しいという子どもたちや、給食が一日の食事の中で最も大事な食事になっている子どももいるなど、三田市の中でも様々な事情がありますが、家庭環境などに関係なく、食事を囲んで楽しい時間を過ごすということには、先生、給食センター、農家さんなど色んな方の努力があるということを感じています。今後もあたたかい給食を続けていただければと思います。

委員

・私は給食で育ちましたので、昼前には給食室からいい匂いがするというのも食育の一つかと思います。調理を給食センターから学校に戻すという方法はないのでしょうか。

- 委員長 ・費用の問題が大きいとは思いますが、芦屋市はその方式です。
- 委員 ・人や予算の問題もあって、なかなか難しいとは思いますが。
- 委員長 ・日本語指導についてですが、担任が指導するには無理があると思います。外国の言葉がわからない、日本語しかわからない人が日本語指導しようと思っても難しい。先日タイの音楽会を観覧した際に、お隣の方が多くの国で勤められたご経験がある方で、現在は日本語の指導をされているとのことでした。特に資格はないけれども、現地の言葉と日本語の両方を知っているから教えられるとのことでした。三田市の今後の見通しとして、日本語指導ができる教員の確保または育成ができるのか、国際化についていけるのか、懸念しています。
- 事務局 ・三田市で日本語指導ができる教職員は現状いない状況で、担任を中心に県のサポーターの支援をいただきながら指導しているのが現状です。低学年から来られている子どもたちは、遊びなどを通じて、生活言語については比較的習得が早いですが、学習言語になると1年や2年では習得が難しいです。特に中学生から来られる子どもたちについては、生活言語の習得もままならない状況で、課題は山積みであるところです。
- ・今後日本語指導をどのように行っていくのかについては、まだ計画もない状況であり、考えていく必要がありますが、国際交流協会のSKIPさんが日本語指導を行ってくださっていますので、ご協力をいただきながら、できることはないか考えているところです。
- ・実際には、担任の先生が日々の学習の中で、日本語指導と授業を一緒に行っているのが現状です。
- 委員長 ・国際交流協会に出入りしていると、外国と関わる仕事をなさっていた方は色々な言語を習得されていて、退職後にボランティアで日本語指導を行ってくれる方もおられるので、対応していただける部分もあるのではないかと思います。
- 事務局 ・各学校での指導には限界があると感じます。阪神間では拠点校があって、日本語指導してくださる方がいて、外国人の子どもたちが通うということもありますが、三田市ではそこまでの体制にはなっておりませんので、今後どのようにしていくかは課題と考えています。
- 委員長 ・国際交流協会と密に連絡をとっていただきたいと思います。

- 事務局
- ・現在も、県のサポーターが来られないときには、国際交流協会の方をお願いして、母語支援や通訳、翻訳に協力いただいています。また、国際交流協会の日本語教室にも通っていますので、連携させていただいています。
- 委員
- ・関連して、幼稚園や体育館が三田市にある神戸親和女子大学について、国際文化学科で日本語指導について学ぶ学生などがボランティアとして日本語指導に関わることは可能でしょうか。もしくは、他の大学からすでに関わっておられるのでしょうか。
- 事務局
- ・同志社女子大学の日本語学科の学生が来られています。
- 事務局
- ・大学と連携した生徒指導に関するサポート制度はございますので、そのような形で何かできることがあれば検討していきたいと思います。
- 事務局
- ・入管法の改正があつて、ここ数年で就労関係に変化が出てきており、移住してこられる様子が変わってきている中で、十分に対応できていない状況があります。また、この4月から日本語指導は国家資格となったという動きもありますので、国家資格を取得した人間が指導していく仕組みが整備される可能性もあることも見据えながら、市としてできることを探っていくしかないと考えています。
- 委員長
- ・そのほかよろしいですか。特に内容の修正等ありませんので、承認するというところでよろしいですか。
- 委員
- ・はい。

< 閉会 >